筑摩書房「ちくま言語文化」（言文143-901）年間指導計画（シラバス）案

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科　目 | 単位数 | 指導学年 | 使用教科書・副教材等 |
| 言語文化 | ２単位 | ○○科○学年○学級 | 筑摩書房『言文143-901　ちくま言語文化』  準拠ノート『ちくま言語文化　課題ノート』  （「課題ノート」の扱いについては省略） |

１　学習の到達目標等

|  |  |
| --- | --- |
| 学習の到達目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。  (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。  (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

２　評価の観点

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価の観点 | | |
| a ．知識・技能 | ｂ．思考力・判断力・表現力 | ｃ．主体的に学習に取り組む態度 |
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 | 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 |

３　学習計画及び評価方法等（言文143-901）

| 月 | 単元名 | 単元の目標 | 学習内容（教材） | 配当時間 | 学習活動 | 評価基準・評価方法 | 評価の方法 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| a 　（知識・技能）ｂ　（思考力・判断力・表現力）読・書  ｃ　（主体的に学習に取り組む態度） |
| 古文編 | | | | | | | |
| ４ | はじめに・第１章　古文への扉 | 古文に親しみ、古文の世界を味わう【読む】 | 言葉の力（大岡信） | 2 | ①筆者は古典についてどう考えているかまとめる。  ②言葉の力について、自ら、具体的に考えてまとめる。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「言葉の力」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、筆者が述べている作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  カ）我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ　【読む】  ア）文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| ４ | はじめに・第１章　古文への扉 | 古文に親しみ、古文の世界を味わう【読む】 | ●児のそら寝  古典文法の窓１  歴史的仮名遣い  ●大納言顕雅卿  古典文法の窓２  品詞の分類  【実践】「構成」」を意識して作品への理解を深めよう | 1 | ①歴史的仮名遣いの読み方を学ぶ。  ②古語と現代語の違いについて理解し、辞書の使い方について学ぶ。  ③説話の面白さについて、内容・表現・歴史的背景などの点から理解する。  ④品詞について理解する。特に体言と用言の区別、用言の品詞の区別を理解する。  【実践】  ①作品の「構成」を意識して四コマ漫画を描く。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）古文の入門的な文章である説話を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）古文の入門的な文章である説話を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、説話の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  カ）古文を題材にした近現代の小説や漫画よ読み、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ　【読む】  ア）説話という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| ４ | はじめに・第１章　古文への扉 | 古文に親しみ、古文の世界を味わう【読む】 | ●絵仏師良秀  【実践】「構成」」を意識して作品への理解を深めよう | 1 | ①歴史的仮名遣いについて理解する。  ②文中の省略語を補って現代語訳する。  ③説話の特色について理解する。  【実践】  作品の「構成」を意識して四コマ漫画を描く。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「絵仏師良秀」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「絵仏師良秀」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、説話の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  カ）古文を題材にした近現代の小説や漫画よ読み、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ【読む】  ア）説話という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| ４ | はじめに・第１章　古文への扉 | 古文に親しみ、古文の世界を味わう【読む】 | ●大江山  古典文法の窓３  用語の活用  ／音便  【実践】「構成」」を意識して作品への理解を深めよう | 1 | ①歴史的仮名遣いについて理解する。  ②用言の活用の種類と活用形を理解する。  ③物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ④説話の特色について理解する。  【実践】  ①作品の「構成」を意識して四コマ漫画を描く。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「大江山」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「大江山」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、説話の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  カ）古文を題材にした近現代の小説や漫画よ読み、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ【読む】  ア）説話という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| 漢文編 | | | | | | | |
| 4 | 第８章　漢文への扉　漢文入門 | 漢文を読むためのきまりを理解する【読む】 | ●漢文をまなぶために  主な置き字・返読文字・再読文字・送り仮名のきまり  ●「憲法十七条」  【実践】「書き下し」という手法で、ことばの構造を考えよう | 4 | ①日本語と漢文の構造の違いを理解する。  ②漢文訓読の仕方を学ぶ。  ③返り点の種類と、それに従った読み方を理解する。  ④「書き下し文の原則」を理解する。  ⑤助字（置き字）の種類と用法を理解する。  ⑥返読文字の種類と、その読み方・意味を理解する。  ⑦再読文字の種類と、その読み方・意味を理解する。  ⑧「送り仮名のきまり」を理解する。  【実践】  ①新聞記事などから熟語を選び、書き下す。  ②熟語の構造から、分類をする。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）漢文句法を学び、「憲法十七条」を読むこと、および熟語の分析を行うことで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「憲法十七条」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）漢文句法を学び、「憲法十七条」を読むこと、および熟語の分析を行うことで我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、漢文句法や「憲法十七条」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  カ）漢語が用いられている現代の作品を読み、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ【読む】  ア）漢文句法を踏まえ、漢文の構成などについて的確に捉えている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| 現代文編 | | | | | | | |
| ５ | 第13章　日本語の変遷　近代語の成立を知る | 古典から近代に至ることばの過程をたどる【読む】 | 近代語の成立 | 2 | ①現代につながる近代語の変遷を学ぶ。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）近代語の成立の経緯を学ぶことを通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  オ）言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。  ｂ【読む】  イ）近代語の成立を学ぶことを通して、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）近代語の成立を学ぶことを通して、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| ５ | 第13章　日本語の変遷　近代語の成立を知る | 古典から近代に至ることばの過程をたどる【読む】 | 余が言文一致の由来 | 2 | ①二葉亭四迷が取り組んだ「言文一致」の困難を学ぶ。  ②「言文一致」について調べる。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「余が言文一致の由来」を読み、「話しことば」と「書きことば」の違いを意識することを通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「余が言文一致の由来」を読み、「話しことば」と「書きことば」の違いを意識することを通して、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  オ）言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。  ｂ【読む】  イ）「余が言文一致の由来」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「余が言文一致の由来」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| 古文編 | | | | | | | |
| ５ | 第２章　人間の普遍的な姿ーー物語を読む | 物語に表れた心情を読み取る【読む】 | ●竹取物語  古典文法の窓４  係り結びの法則  【実践】当時の文化に注目しよう。 | 2 | ①助動詞・係り結びの法則について理解する。  ②敬語について理解する。  ③物語の内容を把握し、登場人物の心情を読み取る。  ④物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ⑤伝奇物語の特色や、『竹取物語』について理解する。  【実践】  ①「竹取物語」と絵本の「かぐや姫」を比較する。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「竹取物語」を読み、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「竹取物語」を読み、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、「竹取物語」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）「竹取物語」と「かぐや姫」を読み比べることで、時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  ア）物語という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  ウ）物語作品の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  エ）「竹取物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| ６ | 第２章　人間の普遍的な姿ーー物語を読む | 物語に表れた心情を読み取る【読む】 | ●伊勢物語  古典文法の窓「ば」の用法  【実践】当時の文化に注目しよう。 | 2 | ①助動詞・係り結びの法則について理解する。  ②接続助詞「ば」の用法について理解する。  ③物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。  ④物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ⑤歌物語の特色や、『伊勢物語』について理解する。  【実践】  ①教科書の中から一つ好きな詩歌を選んで、「歌物語」を作る。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「伊勢物語」を読み、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「伊勢物語」を読み、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、「伊勢物語」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  ア）「歌物語」という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  ウ）「伊勢物語」の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  エ）「伊勢物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 漢文編 | | | | | | | |
| ６ | 第９章　漢語の特色　故事成語を読む | 漢文に親しみ、漢語の成り立ちを理解する【読む】 | ●守株  ●推敲  ●借虎威  ●漁父之利  ●塞翁馬  【実践】ことばが創られる過程に触れよう | 5 | ①漢文訓読について理解する。  ②「句法のまとめ」に挙げられた句法について理解する。  ③各教材の内容と故事について理解する。  ④各教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  【実践】  ①故事成語の出典を、複数の辞書などで調べ、比較する。  ②由来となった漢文の本文を確認する。  ③調べたことを発表する。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）故事成語を読み、また出典を調べることで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  ウ）故事成語を読み、また自ら調べることで、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  エ）故事成語を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）故事成語を通して、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、故事成語の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  ウ）故事成語の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 現代文編 | | | | | | | |
| ７ | 第13章　日本語の変遷　近代語の成立を知る | 古典から近代に至ることばの過程をたどる【読む】 | 若葉かげ | 2 | ①「言文一致」が試みられる一方で、和文体による日記が書かれた近代における文体の多様性を知る。  ②明治時代にあって作家を目指した樋口一葉の置かれた困難な状況を読み取る。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「若葉かげ」を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  エ）「近代語の成立」「余が言文一致の由来」と読み比べて、時間の経過や文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  オ）言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。  ｂ【読む】  イ）「若葉かげ」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「若葉かげ」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| ７ | 第13章　日本語の変遷　近代語の成立を知る | 古典から近代に至ることばの過程をたどる【読む】 | 深山の灯影  【実践】「話しことば」と「書きことば」の違いを意識してみよう | 2 | ①番人夫婦の「俗謡にあるやうな生活」というのはなぜか、考える。  ②W君が「ひどいひどい」と言ったのはなぜか、考える。  ③本文の地の文に見られる特徴を挙げ、どのような工夫があるか箇条書きでまとめる。  ④本文の会話文に見られる特徴を挙げ、それにどのような効果があるか、話し合う。  【実践】  ①グループやペアで話したことばを録音し、文字に書き起こす。   1. 書き言葉に書き換える。 2. 書き言葉と話し言葉に違いについて考える。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「深山の灯影」を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  エ）「近代語の成立」「若葉かげ」と読み比べて、時間の経過や文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  オ）言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。  ｂ【読む】  イ）「深山の灯影」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「深山の灯影」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 古文編 | | | | | | | |
| ９ | 第３章　自分という他者ーー日記を読む | 背景を考えながら作品の視点を解釈する【読む】 | ●土佐日記  【実践】一人称で語ってみよう | 2 | ①助動詞（反実仮想）について理解する。  ②日記の内容を把握し、作者の心情を理解する。  ③日記に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ④日記の特色や、『土佐日記』について理解する。  【実践】  ①自らの出来事を、自分自身とは語り手の設定を変えて語る。  ②古典の物語を一人称に換えて書く。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「土佐日記」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「土佐日記」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、「土佐日記」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  イ）「土佐日記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「土佐日記」や日記文学の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| ９ | 第３章　自分という他者ーー日記を読む | 背景を考えながら作品の視点を解釈する【読む】 | ●更級日記  古典文法の窓５  助動詞  【実践】一人称で語ってみよう | 2 | ①助詞について理解する。  ②日記の内容を把握し、作者の心情を理解する。  ③日記に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ④日記の特色や、『更級日記』について理解する。  【実践】  ①自らの出来事を、自分自身とは語り手の設定を変えて語る。  ②古典の物語を一人称に換えて書く。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「更級日記」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「更級日記」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、「更級日記」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  イ）「更級日記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「更級日記」や日記文学の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| 漢文編 | | | | | | | |
| ９ | 第10章　言動に表れる人間の本質　史伝を読む | 描かれたことばと行動から人間像を読み取る【読む】 | ●管鮑之交  【実践】記録から人物像を具体的に把握しよう | 2 | ①「管鮑之交」の内容を把握し、登場人物の心情を理解する。  ②「管鮑之交」に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ③中国の歴史・文化について理解する。  ④漢文の特色を声に出して味わう。  【実践】  ①登場人物を一人選び、その人柄が最もよく伝わる発言や行動を抜き出して、グループで話し合う。  ②抜き出した部分をもとに人物像をまとめ、発表する。  ③人物評を書く。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「管鮑之交」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「管鮑之交」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）「管鮑之交」を読んで、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、「管鮑之交」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  イ）「管鮑之交」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「管鮑之交」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  オ）「管鮑之交」の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| ９ | 第10章　言動に表れる人間の本質　史伝を読む | 描かれたことばと行動から人間像を読み取る【読む | ●刺客荊軻  【実践】記録から人物像を具体的に把握しよう | 1 | ①「管鮑之交」の内容を把握し、登場人物の心情を理解する。  ②「管鮑之交」に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ③中国の歴史・文化について理解する。  ④漢文の特色を声に出して味わう。  ➀教科書で学んだ史伝から人物の特徴がよく伝わる発言や行動を抜き出す。  ②グループで話し合い、人物像をまとめ、発表する。  ③発表を聞いて、考えたことをノートにまとめる。  【実践】  ①登場人物を一人選び、その人柄が最もよく伝わる発言や行動を抜き出して、グループで話し合う。  ②抜き出した部分をもとに人物像をまとめ、発表する。  ③人物評を書く。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「刺客荊軻」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「刺客荊軻」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）「刺客荊軻」を読んで、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、「刺客荊軻」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  イ）「刺客荊軻」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「刺客荊軻」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  オ）「刺客荊軻」の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| ９ | 第10章　言動に表れる人間の本質　史伝を読む | 描かれたことばと行動から人間像を読み取る【読む | ●死諸葛走生仲達  【実践】記録から人物像を具体的に把握しよう | 1 | ①「死諸葛走生仲達」の内容を把握し、登場人物の心情を理解する。  ②「死諸葛走生仲達」に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ③中国の歴史・文化について理解する。  ④漢文の特色を声に出して味わう。  【実践】  ①登場人物を一人選び、その人柄が最もよく伝わる発言や行動を抜き出して、グループで話し合う。  ②抜き出した部分をもとに人物像をまとめ、発表する。  ③人物評を書く | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「死諸葛走生仲達」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「死諸葛走生仲達」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）「死諸葛走生仲達」を読んで、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、「死諸葛走生仲達」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  イ）「死諸葛走生仲達」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「死諸葛走生仲達」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  オ）「死諸葛走生仲達」の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| ９ | 第10章　言動に表れる人間の本質　史伝を読む | 描かれたことばと行動から人間像を読み取る【読む | ●那須宗高  【参考】那須与一  【実践】記録から人物像を具体的に把握しよう | 1 | ①『日本外史』の「那須宗高」と『平家物語』の「那須与一」の描かれ方について、それぞれまとめる。  【実践】  ①登場人物を一人選び、その人柄が最もよく伝わる発言や行動を抜き出して、グループで話し合う。  ②抜き出した部分をもとに人物像をまとめ、発表する。  ③人物評を書く | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「那須宗高」と「那須与一」を読み比べて、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「那須宗高」と「那須与一」を読み比べて、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）「那須宗高」と「那須与一」を読み比べて、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、「那須宗高」と「那須与一」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  イ）「那須宗高」と「那須与一」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「那須宗高」と「那須与一」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  オ）「那須宗高」と「那須与一」の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・中間考査 |
| 現代文 | | | | | | | |
| 10 | 第14章　韻文の表現（三）　詩歌を作る | 詩歌の自由律と定型を学び、表現力を高める【書く】 | ●小諸なる古城のほとり  ●落葉  ●竹  ●樹下の二人  ●乳母車  ●20億光年の孤独  ●崖 | 1 | ①「小諸なる古城のほとり」について、各連の内容を整理し、詩の主題をまとめる。  ②「落葉」について、１行５音の形式がもたらすこう効果や、３つの連に共通する特徴を考える。  ③「竹」について、言葉やリズムのイメージを考え、「竹」がなにを象徴しているのかを考える。  ④「樹下の二人」について、「あなた」と「私」、「自然」と「都会」との関係をまとめ、発話の主体と時間をそれぞれ想定して、この詩の魅力を考える。  ⑤「乳母車」について、「母よ　私の乳母車を押せ」や「この道は遠く遠く果てしない道」という表現が表そうとしたものは何か、考える。  ⑥「20億光年の孤独」について、「人類」や「火星人」はどのようなことばに言い換えられるかを考え、「20億光年の孤独」とはどのようなものか、考える。  ⑦「崖」について、多用される行替えや「」にくくられた部分の効果を説明する。  ⑧７編の詩をもとに、日本の近現代詩の変遷や、その特徴を調べる。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）近現代詩を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  イ）近現代詩を通して、常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。  ウ）近現代詩を通して、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  エ）近現代詩を通して、語句の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  カ）教科書に掲載された詩以外の詩についても読むことで、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ【書く】  ア）近現代詩を創作する際には、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  イ）近現代詩を創作する際には、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 古文編 | | | | | | | |
| 11 | 第４章　ことばに表れる意思　随想を読む | 文章を手掛かりに作者の思いを読み取る【読む】 | ●枕草子 | 1 | ①「枕草子」に描かれた清少納言特有の感性や、表現を考える。  ②体言や連体形で止める表現の効果を考える。  ③助動詞の文法的役割や現代語訳を理解する。  ④敬語を理解する。  ⑤もの尽くしの章段を調べて読む。  ⑥当時の日本人が白居易から受けていた影響について調べる。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「枕草子」を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「枕草子」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）「枕草子」と「香爐峰下新卜山居草堂初成偶題東壁」を読み比べて、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  イ）「枕草子」と「香爐峰下新卜山居草堂初成偶題東壁」を読み比べて、それぞれに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「枕草子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 11 | 第４章　ことばに表れる意思　随想を読む | 文章を手掛かりに作者の思いを読み取る【読む】 | ●徒然草  【実践】  作者のものの見方を理解しよう | ２ | ①助詞・まぎらわしい語の区別について理解する。  ②形容詞の音便について理解する。  ③随筆の内容を把握し、作者の心情を理解する。  ④随筆に描かれた鎌倉時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ⑤随筆の特色や、『徒然草』について理解する。  【実践】  ①「徒然草」と「玉勝間」を比較する。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「徒然草」を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「徒然草」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）「徒然草」を呼んで、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  イ）「徒然草」と「玉勝間」を読み比べて、それぞれに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「徒然草」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 11 | 第４章　ことばに表れる意思　随想を読む | 文章を手掛かりに作者の思いを読み取る【読む】 | ●方丈記  古典文法の窓６  助詞  【実践】作者のものの見方を理解しよう | 1 | ①対句表現について理解する。  ②随筆の内容を把握し、作者の心情を理解する。  ③随筆に描かれた鎌倉時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ④随筆の特色や、『方丈記』について理解する。  【実践】  ①［参考］に示した「歎逝賦」と「ゆく河の流れ」を比較して、漢文と古文の関連について理解する。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「方丈記」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）「方丈記」と「歎逝賦」を読み比べて、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  イ）「方丈記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  エ）「方丈記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 11 | 第５章　転換期の文体と行動ーー軍記を読む | 語りの文体が表す臨場感に触れる【読む】 | ●平家物語  古典文法の窓７  敬語法  【実践】体験を通して古典文化の理解を深めよう | 3 | ①音便・敬語法・対句表現について理解する。  ②物語の内容を把握し、登場人物の心情を理解する。  ③物語に描かれた平安時代末期の武人の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ④軍記物語や、『平家物語』の特色について理解する。  ⑤語りの文体としての軍記物語の特色を声に出して味わう。  【実践】  ①琵琶法師の語る「平家物語」を聞き、「語り」の特徴を理解する。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「平家物語」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「平家物語」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、「平家物語」や琵琶法師の語りの歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  オ）和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。  ｂ【読む】  ウ）「平家物語」の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  エ）「平家物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 11 | 第５章　転換期の文体と行動ーー軍記を読む | 語りの文体が表す臨場感に触れる【読む】 | 転換期の文学  ――『平家物語』の魅力 | 1 | ①『平家物語』冒頭の内容を理解する。  ②『平家物語』の文体について理解する。  ③『平家物語』が持つ現代的な意義について考察する。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「転換期の文学」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「転換期の文学」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  オ）和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。  ｂ【読む】  ウ）「転換期の文学」を参考に、「平家物語」について、構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  エ）「転換期の文学」を参考に、「平家物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 漢文編 | | | | | | | |
| 12 | 第11章　韻文の表現（二）　唐詩を翻案する | 唐詩を通して心情を伝える表現を身につける【書く】 | ●登鸛鵲楼  ●鹿柴  ●秋風引  ●江雪  ●涼州詞  ●望廬山瀑布  ●江南春  漢詩の決まり①  ●過故人荘  ●送僧帰日本  ●江村  ●八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九  漢詩の決まり②  【実践】  翻案を通じて、自分の思いを伝えよう | 4 | ①それぞれの唐詩を声に出して読み、音声として味わう。  ②唐詩の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。  ③唐詩の種類・修辞や、その役割について理解する。  ④さまざまな詩人についての理解を深める。  ⑤「句法のまとめ」に挙げられた句法について理解する。  【実践】  ①翻案詩を創作する。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）唐詩を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  ウ）唐詩を通して、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  エ）唐詩を通して、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  オ）翻案を通して、本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）唐詩を通して、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、唐詩の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【書く】  ア）翻案詩を創作するなかで、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  イ）翻案詩を創作するなかで、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 現代文編 | | | | | | | |
| 12 | 第14章　韻文の表現（三）　詩歌を作る | 詩歌の自由律と定型を学び、表現力を高める【書く】 | 短歌 | 1 | ①それぞれの短歌を声に出して読み、表現の工夫を理解しながら、その音律を味わう。  ②短歌の表現に即して内容を味わい、作者の人生や自然に対する見方・考え方を理解する。  ③短歌の修辞やその役割について理解する。  ④それぞれの歌人についての理解を深める。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）短歌を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  イ）常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。  ウ）短歌を通して、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  エ）短歌の語句の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  カ）我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ【書く】  ア）短歌を創作する際には、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  イ）短歌を創作する際には、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 12 | 第14章　韻文の表現（三）　詩歌を作る | 詩歌の自由律と定型を学び、表現力を高める【書く】 | 俳句 | 1 | ①それぞれの俳句を声に出して読み、音声として味わう。  ②俳句の表現に即して内容を味わい、作者の人生や自然に対する見方・考え方を理解する。  ③俳句の修辞やその役割について理解する。  ④それぞれの俳人についての理解を深める。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）俳句を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  イ）常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。  ウ）俳句を通して、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  エ）俳句の語句の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  カ）我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ【書く】  ア）俳句を創作する際に、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  イ）俳句を創作する際に、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組み、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 12 | 第14章　韻文の表現（三）　詩歌を作る | 詩歌の自由律と定型を学び、表現力を高める【書く】 | 美の世界  【実践】詩歌を通して表現力を磨こう | 1 | ①筆者の表現から、筆者が引用した俳句についてどのような批評をしているか読み取る。  ②筆者の批評を参考に、引用された詩歌について自分自身で作品批評を考える。  ③筆者の漢詩和訳にはどのような工夫があり効果があるか、批評を行い、グループで話し合って、自分の批評の内容について吟味する。  【実践】  ①詩・短歌・俳句の中から一つのジャンルを選び、創作活動を行う。  ②クラスで選評会を行う。  ③選評会の後に、佐藤春夫「美の世界」を参考に「歌の魅力」という題で文章を書く。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）作品批評を行っている「美の世界」を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  イ）常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。  ウ）「美の世界」のさまざまな批評表現や引用された詩歌通して、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  エ）「美の世界」を通して、文章で用いられている語句の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  カ）引用されたさまざまな作品を通して、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ【書く】  ア）自ら創作や作品批評をする際に、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。  イ）自ら創作や作品批評をする際に、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組み、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 古文編 | | | | | | | |
| 1 | 第６章　韻文の表現（一）和歌・俳諧を鑑賞する | 韻文の表現から、ことばへの理解を深める【読む】 | 和歌  『万葉集』  『古今和歌集』  『新古今和歌集』  【実践】韻文を鑑賞する力を磨こう | 1 | ①それぞれの和歌を声に出して読み、音声として味わう。  ②和歌の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。  ③和歌の修辞やその役割について理解する。  ④さまざまな歌人についての理解を深める。  ⑤『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の特色について理解する。  【実践】  ①和歌の鑑賞文を書く。  ②歌合をする。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）和歌を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  ウ）和歌を通して、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  エ）和歌を通して、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  オ）本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、和歌の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  ウ）和歌の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  エ）和歌の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・鑑賞文・期末考査 |
| 1 | 第６章　韻文の表現（一）和歌・俳諧を鑑賞する | 韻文の表現から、ことばへの理解を深める【読む】 | ●奥の細道  「序」  「白河の関」  「立石寺」  【古典文法の窓８】  ＊和歌・誹諧の修辞  【実践】韻文を鑑賞する力を磨こう | 2 | ①俳諧紀行文の内容を把握し、俳諧に託された人物の心情を読み取る。  ②俳諧紀行文に描かれた江戸時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。  ③それぞれの句を声に出して読み、音声として味わう。  ④俳諧の修辞やその役割について理解する。  ⑤俳諧の特色や、『奥の細道』について理解する。  【実践】  ①和歌や俳句の鑑賞文を書く。  ②歌合をする。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「奥の細道」を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  ウ）「奥の細道」を通して、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  エ）「奥の細道」を通して、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  オ）本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、「奥の細道」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  ウ）「奥の細道」の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  エ）「奥の細道」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・鑑賞文・期末考査 |
| 漢文編 | | | | | | | |
| 1 | 第１２章　読みつがれることば　中国古典思想を読む | 思想を伝える表現の工夫を読み取る【読む】 | ●論語　孔子の説く「知」と「政」 | １ | ①『論語』各文の内容を把握し、その論理展開を理解する。  ②『論語』に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方・考え方を理解する。  ③『論語』と孔子について理解する。  ④［参考］に示した『礼記』の「苛政猛於虎」の内容を把握し、孔子の考え方を理解する。  ⑤漢文の特色を声に出して味わう。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「論語」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「論語」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）「論語」を読んで、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、「論語」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  エ）「論語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  オ）「論語」の内容や解釈を踏まえ、自分の物の見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 1 | 第12章　読みつがれることば　中国古典思想を読む | 思想を伝える表現の工夫を読み取る【読む】 | ●老子　老子の説く「知」と「政」  【実践】表現の特徴を読み取ろう | １ | ①『老子』各文の内容を把握し、その論理展開を理解する。  ②『老子』に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方・考え方を理解する。  ③『老子』と老子について理解する。  ④漢文の特色を声に出して味わう。  【実践】  ①孔子と老子の考えを比較して、自ら参考にできることをまとめる。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「老子」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「老子」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために。「老子」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  エ）「老子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  オ）「老子」の内容や解釈を踏まえ、自分の物の見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 1 | 第１２章　読みつがれることば　中国古典思想を読む | 思想を伝える表現の工夫を読み取る【読む】 | ●孔子問礼 | 1 | ①各文の内容を把握し、その論理展開を理解する。  ②描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方・考え方を理解する。  ③孔子に老子がどのような忠告を行い、それを孔子はどのように受け止めたか理解する。  ④漢文の特色を声に出して味わう。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「孔子問礼」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「孔子問礼」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）「孔子問礼」を読んで、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  エ）「孔子問礼」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  オ）「孔子問礼」の内容や解釈を踏まえ、自分の物の見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 1 | 第１２章　読みつがれることば　中国古典思想を読む | 思想を伝える表現の工夫を読み取る【読む】 | ●雑説 | １ | ①「雑説」の論旨を文章の展開に沿って把握する。  ②中国の歴史・文化について理解する。  ③漢文の特色を声に出して味わう。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「雑説」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「雑説」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  ア）「雑説」を読んで、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。  イ）古典の世界に親しむために、「雑説」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  エ）「雑説」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  オ）「雑説」の内容や解釈を踏まえ、自分の物の見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 古文編 | | | | | | | |
| 2 | 第７章　練り上げられた思考 | 作品と対話し、自分の見方、考え方を深める【読む】 | ●正徹物語「待つ恋」 | 1 | ①本歌取りの技法とその効果を学ぶ。  ②『正徹物語』の鑑賞の仕方を学ぶ。  ③まぎらわしい語の区別を学ぶ。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「正徹物語」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「正徹物語」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  オ）本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、「正徹物語」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  オ）「正徹物語」の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 2 | 第７章　練り上げられた思考 | 作品と対話し、自分の見方、考え方を深める【読む】 | ●玉勝間「いにしへよりも後世まされること」  【古典文法の窓・9】まぎらわしい語の区別  【実践】小論文  書いて、古文の魅力を確認しよう | 2 | ①論理的に構成された随想の内容を理解する。  ②作者の主張について考える。  【実践】  ①本居宣長の主張をもとに、「古典と私」というタイトルで小論文を書く。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「玉勝間」を読んで、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  エ）「玉勝間」を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  イ）古典の世界に親しむために、「玉勝間」の歴史的・文化的背景などを理解している。  ウ）古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。  エ）時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。  ｂ【読む】  オ）「玉勝間」の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国にの言語文化について自分の考えをもっている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 3 | 第１５章　散文の可能性　小説・随想を読む | 散文を通して思索を深め、表現の可能性を探る【読む】 | 檸檬 | 5 | ①「私」の心情や行動にそって本文をいくつかの場面に分け、それぞれ内容をまとめる。  ②「積み重ねた本の群れ」の上に「檸檬を据えつけた」のはなぜか、考える。  ③本文で多用されているダーシ（――）は、それぞれどのような働きをしているか、話し合う。  ④ことばにならない鬱屈を描いた短編小説を通して表現の可能性について考える。 | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「檸檬」を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  イ）常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。  ウ）「檸檬」を通して、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  エ）「檸檬」を通して、文章で用いられている語句の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  カ）「檸檬」を通して、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ【読む】  ア）小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができている。  イ）「檸檬」という作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  ウ）「檸檬」の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  エ）「檸檬」の成立した背景や「若葉かげ」「深山の灯影」など他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  オ）「檸檬」の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができている。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |
| 3 | 第１５章　散文の可能性　小説・随想を読む | 散文を通して思索を深め、表現の可能性を探る【読む】 | ●物語る声を求めて | 5 | ①「口承文学」という言語文化について考える。  ②「物語る」ことについて、自らの体験と照らし合わせて考え、まとめる | a（１）言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「物語る声を求めて」を通して、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。  イ）常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。  ウ）「物語る声を求めて」を通して、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  エ）文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。  （２）我が国の言語文化に関する事項  カ）「物語る声を求めて」を通して、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。  ｂ 【読む】  ア）随想という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。  イ）「物語る声を求めて」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  ウ）「物語る声を求めて」の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。  エ）「物語る声を求めて」が書かれた背景や、「平家物語」など口承で伝えられてきた他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  オ）「物語る声を求めて」の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。  ｃ　教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。（授業態度）／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを積極的に継承していくことについて自覚をもとうとしている。（発表・授業時の態度） | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・期末考査 |